

令和 8 年（2026 年）8 月 25 日		
所 属	就学前教育課	教育情報システム課
所属長	大室 雅達	西野 雅之
電 話	06-4950-5665	06-6480-5178

【子育て・教育 DX】欠席の電話連絡が不要に！保護者の費用負担もゼロへ ～市立小中学校・幼稚園に保護者連絡システムを導入～

現在、市立小中学校では各校独自で保護者連絡ツールが導入されており、一部の学校では保護者の費用負担が生じています。また幼稚園・保育所においては欠席等の連絡は電話中心のため、朝の業務がひっ迫しているほか、手書きでの書類作成やお便りの紙配布が教職員・保育士の大きな負担となっています。

こうした課題を解決するため、令和 8 年（2026 年）9 月から市立小中学校においては【保護者連絡アプリ】、市立幼稚園においては【幼稚園・保育園向け保育 ICT システム】の利用を順次開始します。また、令和 9 年（2027 年）1 月から市立保育所においても同様のシステム導入を予定しています。いずれも、保護者の費用負担はありません。

幼稚園・保育所から中学校まで切れ目のないデジタル環境整備をおこなうことで、保護者の利便性向上と教職員の負担軽減、ペーパーレス化を実現し、子どもと向き合う時間の確保につなげます。

1 導入の概要

対象施設	導入するシステム	利用開始時期
市立小・中・特別支援学校 (小 41 校・中 18 校・特 1 校)	ミマモルメ (株式会社ミマモルメ)	令和 8 年（2026 年）9 月中に保護者へ案内し、一部機能から利用開始 ※既に導入済みの 24 校から全校に拡大し、機能を拡充
市立幼稚園（8 園）	キッズビュー (日本ソフト開発株式会社)	令和 8 年（2026 年）9 月中に保護者へ案内し、一部機能から利用開始
市立保育所（15 所）	今後、事業者を決定	令和 9 年（2027 年）1 月（予定）

※欠席・遅刻連絡、お便り等の配信、登降園の通知など、施設種別に応じた機能を提供します。利用は無料です（通信料は保護者負担）

2 導入の背景

小中学校では学校ごとに連絡手段が異なり、独自にシステムを導入した一部の学校では、利用料を保護者が負担しています。またお便りやチラシの配布は紙が中心で、印刷・配布に係る教職員の作業負担や、家庭に確実に届かないといった課題があります。

幼稚園では令和 8 年度から 3 年保育の開始により、園あたりの園児数が増加していることや預かり保育の時間拡充に伴い事務量が急増しています。また、欠席・遅刻の連絡が 1 回線の電話のみで行われている現状などが保護者・教職員双方の負担となっています。

3 期待される効果（双方の負担軽減）

① 保護者のメリット

＜小中学校＞

- 費用負担なし : 市による一括導入で、独自導入校（一部）での保護者の費用負担を解消
- 確実な情報受取 : お便りをアプリで受け取り、いつでも確認可能。紛失の心配も解消

＜幼稚園＞

- スマホで申請 : 預かり保育の利用申請・変更がスマホで完結
- 電話が不要に : 欠席・遅刻連絡がアプリで完結。時間を選ばず前日でも連絡可能

② 教職員のメリット

＜小中学校＞

- ペーパレス化 : お便り等の印刷・配布作業と紙・印刷コストを削減
- システム習熟 : 異動先でも同一システムを利用可能

＜幼稚園＞

- ミスの防止 : 預かり保育の利用申請の確認漏れや書類紛失リスクを防止
- 負担の軽減 : 預かり保育の利用実績の自動集計により業務負担を軽減

【参考】

同種のアプリを導入した他自治体では、職員の事務作業時間が1か月あたり約4～6割削減された実績や、保護者アンケートで7割以上が「便利になった」と回答した事例が報告されており、本市においても同様の効果を見込んでいます。

4 利用方法

令和8年9月中に、小中学校・幼稚園から保護者へ登録方法を案内します。スマートフォン等でアプリの登録を行うことにより、欠席・遅刻連絡、預かり保育利用申請などの一部機能から順次利用できます。

5 今後の展望

今回の導入を子育て・教育DXの第一歩とし、利用状況や現場の声を踏まえて対象機能を段階的に拡充していきます。今年度中に幼稚園・保育所から中学校まで切れ目のないデジタル環境を整備し、保護者の利便性向上と、教職員・保育士が子ども一人ひとりに向き合える環境づくりを支援します。

以 上

導入の背景 — ①小・中学校における実情

市立小中学校では各校独自で保護者連絡ツールが導入されていますが、一部の学校では保護者の費用負担が生じています。またお便り等の配布も紙が中心となっています。

現状

- それぞれの学校で保護者連絡ツールを導入しており、一部の学校では保護者に費用負担が生じている
- お便りやチラシの配布は紙が中心

課題

- 保護者の費用負担
- 紙のお便りを家庭へ確実に届けることができない
- 印刷・配布に係る教職員の作業負担

目指す姿

統一システムで保護者の費用負担をゼロに。
学校と家庭がデジタルで直結する、安全・安心な教育環境の実現を。

解決策 — ①小・中学校向けに「ミマモルメ」を導入

令和8年9月より順次、市立小・中学校へ保護者連絡アプリ「ミマモルメ」を導入します。

保護者のメリット

- **費用負担がゼロに**
市の一括導入で保護者の費用負担はゼロ
- **アプリから連絡が可能に**
スマートフォンのアプリ等から、
欠席や遅刻の連絡がスムーズに
- **紙チラシなどのデジタル受信が可能に**
これまで紙で配布していた行事チラシ
などをデジタルで受け取れるように

教職員のメリット

- **市内統一システムによる業務負担の軽減**
市内全校で連絡システムが統一されることで、異動
先でも同じシステムを継続して利用
- **ペーパーレス化によるコスト・労力の削減**
印刷・仕分け・配布作業に係る教職員の負担を削減し、同時に紙のやり取りによる紛失トラブルも未然に防止



実際のアプリ画面を
ご覧ください

導入の背景 — ②幼稚園における実情

幼稚園では令和8年度から3年保育の開始による**園あたりの園児数が増加**し、また、預かり保育の時間拡充（最大7:30～19:00）に伴い**事務量が急増**していることや、欠席・遅刻の連絡が1回線の電話のみで行われている現状などが**保護者・教職員双方の負担**となっています。

現状

- 紙による預かり保育の利用申請
- 欠席・遅刻の連絡は1回線の電話
- 園児情報の管理が紙中心



課題

- **双方の負担及び確認漏れのリスク**
- 朝に**連絡が集中し、電話がつながりにくい**
- **書類紛失のリスク・業務負担**

目指す姿

教職員の負担を軽減し、『**子どもと向き合う時間**』を最大化。
保護者とのコミュニケーションも円滑にし、**教育・保育の質のさらなる向上**を。

解決策 — ②幼稚園向けに「キッズビュー」を導入

令和8年9月より順次、市立幼稚園へ幼稚園・保育園向け保育ICTシステム「キッズビュー」を導入します。
令和9年1月には市立保育所においても同様にシステム(アプリ)を導入予定。

保護者のメリット

➤ スマホで預かり保育の利用申請が可能

申請や変更の度に行っていた
紙の申請書の提出が不要となり、
スマホでいつでも申請・変更が可能に

➤ 朝の電話連絡が不要に

忙しい朝に電話をかける必要が
なくなり、欠席・遅刻の連絡が
アプリで完結



教職員のメリット

➤ 預かり保育の利用実績の自動集計

預かり保育の利用申請電子化及び登降園打刻の
自動化により、集計に係る業務負担を軽減

➤ 欠席・遅刻状況の教職員間共有

タブレット端末を見るだけで欠席・遅刻状況の把握
が可能

➤ 園児情報の一元管理

園児の基礎情報や緊急連絡先をシステムで共有
し、園内での情報共有がスムーズに

今後の展望 — 子育て・教育DXの実現に向けて

今回の導入を「子育て・教育DX」の第一歩として、今後は現場の声を踏まえながら**対象機能を段階的に拡充していきます。**

STEP 1
令和8年9月

市立小中学校・幼稚園で開始

- 欠席・遅刻連絡やお便り配信、登降園の通知など、施設種別に応じた一部機能から順次利用開始

STEP 2
令和9年1月

市立保育所でも開始

STEP 3
令和9年度～

機能を段階的に拡充

- 利用状況や現場の声を踏まえ、施設種別に応じた機能を拡大

拡充候補の機能

(小・中学校)「家庭環境調査票」・「保健調査票」のオンライン提出
(幼稚園) WEBアンケート、指導計画等の作成